

2023年度 環境経営レポート

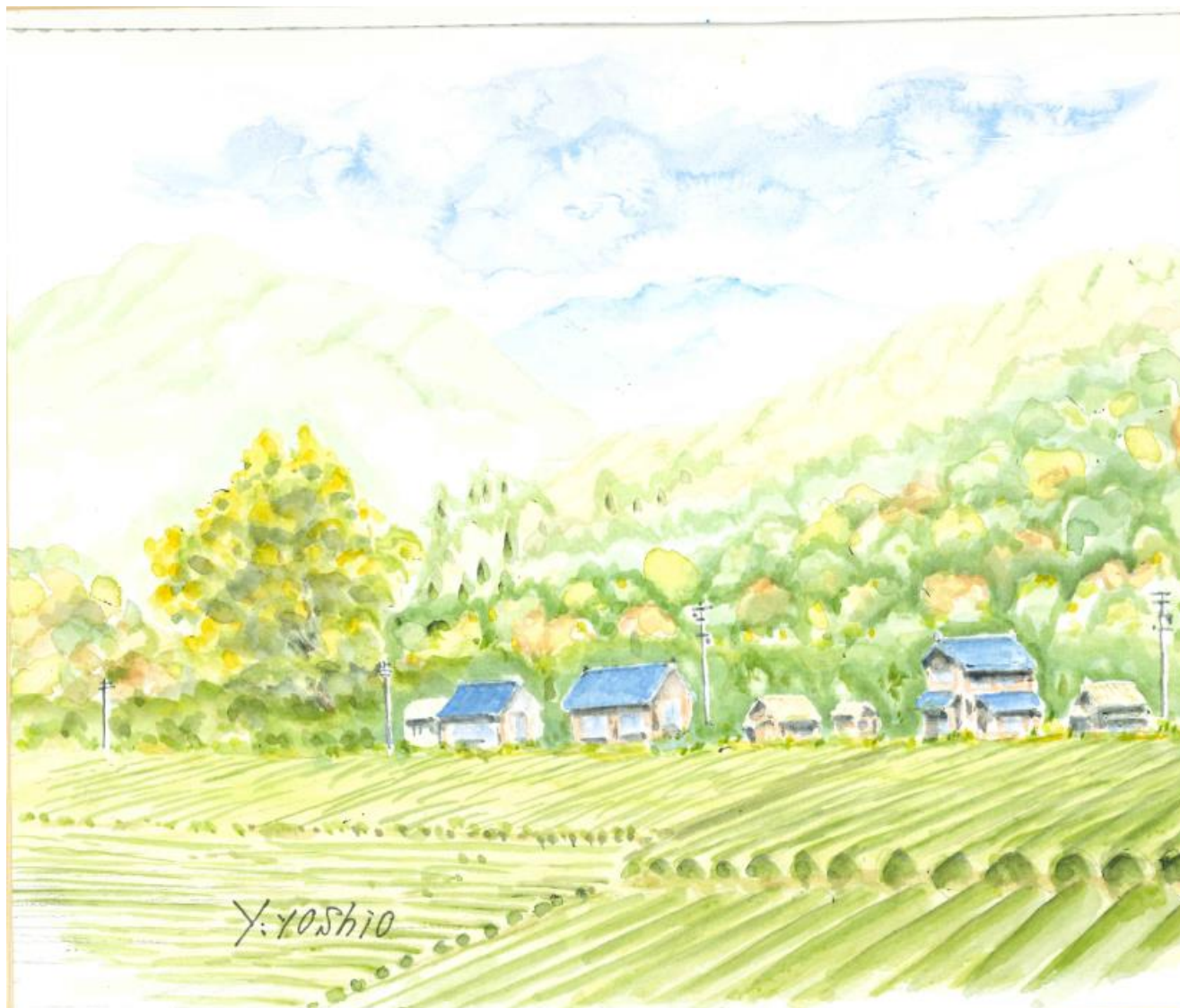
対象期間 2023年10月～2024年9月



環境省

エコアクション21

認証番号0001335



芙蓉アステック株式会社

2024年 11月 29日 作成

目次

I	環境経営方針	3
II	事業概要(実施体制)	4～6
III	環境経営目標とその実績(負荷)	7
IV	2023年度環境経営計画 実施評価	8～15
V	次年度(2024年度)の取組内容	16
VI	環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟などの有無	17
VII	事故及び緊急事態の想定結果及びその対応策	18
VIII	代表者による全体の評価と見直し・指示	21

環境経営方針

社是

商士道(三方良しの心)の追求
【売って良し 買って良し 世間に良し】

基本方針

当社は省エネルギーに役立つ断熱素材や、リサイクル素材を容易に分離できる梱包資材などの製造、加工を中心に事業を行っています。当社の企業経営、発展においても環境への配慮が不可欠であることを自覚し、積極的に自然環境の向上に努めます。エコアクション21の活動を中心として経営効率を高め環境負荷を削減します。

従業員が安全で健康に働ける職場にします。
雇用の安定のために無期雇用を推進します。
地域社会と調和し継続的な環境保全と向上につとめます。
雇用、環境を守り、社会に必要不可欠な存在となり続けることによって会社を発展させます。

行動指針

- 1 環境保全に取組み、継続的な改善によって経営効率を高め環境負荷を削減します。
 - 省エネルギーに努めCO2排出量を削減します。
 - 製造工程、生産方式を見直し、廃棄物の削減に取り組みます。
 - 資源の効率利用により水使用量を削減します。
 - 省エネルギーの技術革新情報を収集し、経営に生かします。
 - 自らが生産する製品に関して環境配慮します。
 - 各工場の受注バランス変化に対応できる人材を育て、雇用を守ります。
- 2 環境関連法規及び当社が受け入れを決めた基準などを遵守します。
- 3 自然環境にやさしい会社を目指すとともに、従業員の快適な職場環境を整えます。
自然災害等への備え
 - 地震などの天災や火災等の防災対策を行います。
 - 健康被害を未然に防ぐ対策を行います。
 - 事業継続計画を策定します。
- 4 社員教育を通じ、会社内にとどまらず個人の生活でもエコアクション21の精神を浸透するように務めます。
- 5 この方針は掲示するとともに会議等を通じ全員に周知させます。

制定日 2005年 4月1日
改定② 2023年 10月1日

芙蓉アステック株式会社

代表取締役社長 澤野嘉浩

Ⅱ 事業概要

1 会社概要

会社名	芙蓉アステック株式会社
代表者取締役社長	澤野嘉浩
所在地 本社	静岡県駿河区豊田3-7-44
西工場	静岡県駿河区豊田3-8-25
南工場	静岡県駿河区豊田3-7-30
従業員数	68名
地域指定	工業地域
敷地面積	3138㎡
建物延床面積	1832㎡
生産施設面積	1532㎡

2 環境管理の責任者 氏名 連絡先

責任者	杉本達哉
TEL	054-282-2354
FAX	054-282-2316
MAIL	sugimoto@fuyoastec.co.jp

3 沿革	昭和33年10月	中原製紙株式会社の分工場として、静岡県住吉町2丁目に紙バンド及びポリエチレンブロー成形工場を創業
	昭和37年 1月	芙蓉包装有限会社(資本金200万円)を設立、現在地に工場を建設
		三菱電機静岡製作所様を主な取引先とし、梱包材の加工及び絶縁材加工を開始
	昭和59年 6月	電気品組立加工を開始
	平成 2年 9月	電気品組立専用工場として南工場を新設
	平成 3年 5月	社名を芙蓉アステック株式会社に変更
	平成19年 2月	エコアクション21 取得
	平成23年 7月	THAIFELT CO.,LTD(タイ アマタナコン工業団地)へ出資
	平成26年1月20日	火災により本社工場 焼失
		南工場に仮設事務所を設置し対応
	平成26年9月	新本社工場 完成 稼動開始
	令和3年3月	静岡市に対して SDGsを宣言

4 事業内容

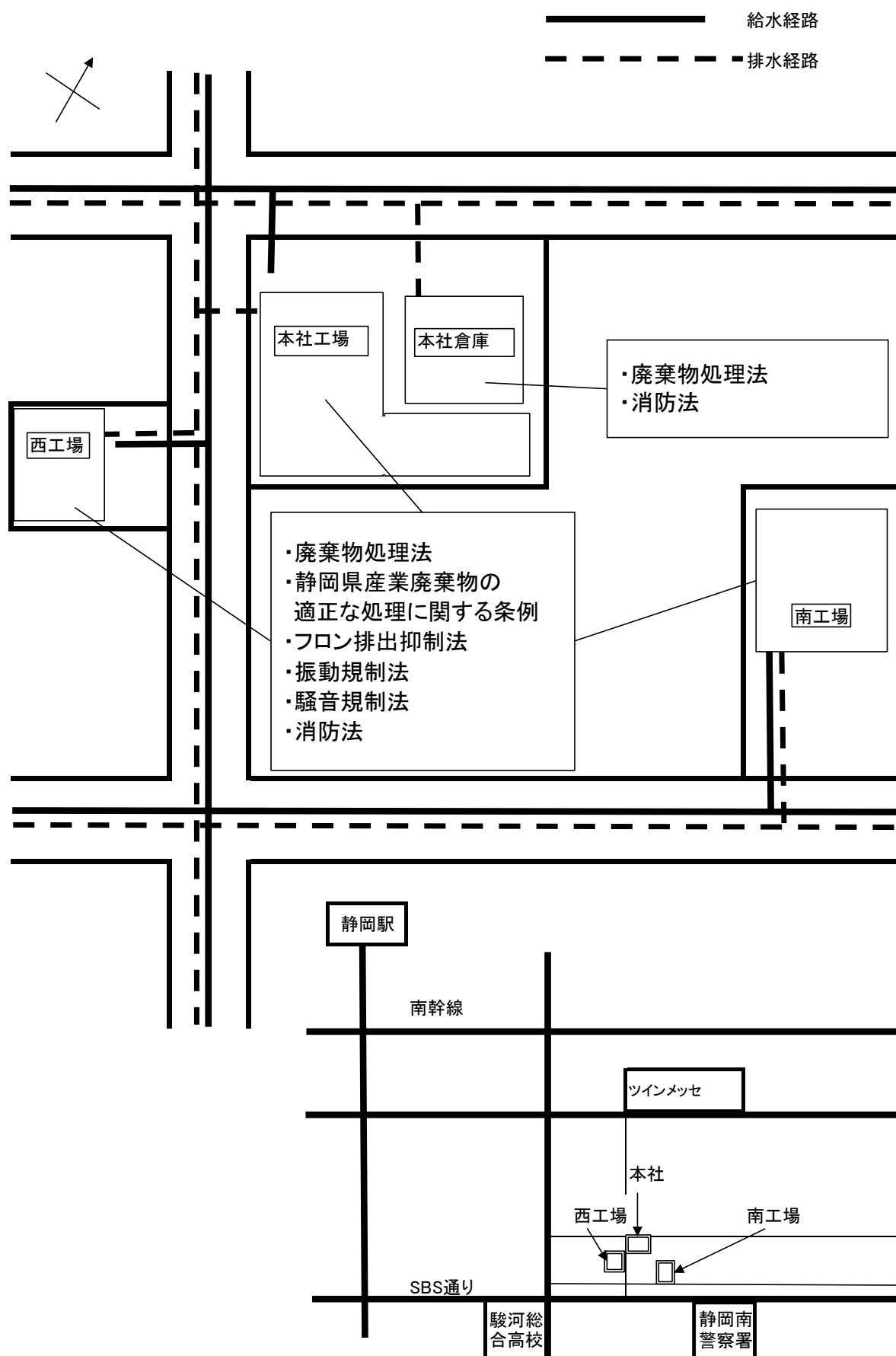
本社工場	断熱材・梱包資材(PE・PU・EPDM・CRゴム等)の発泡フォームの加工
西工場	ボトムクッション組立加工
南工場	電気部品組立加工(主として冷蔵庫、パッケージエアコン)

5 事業の規模

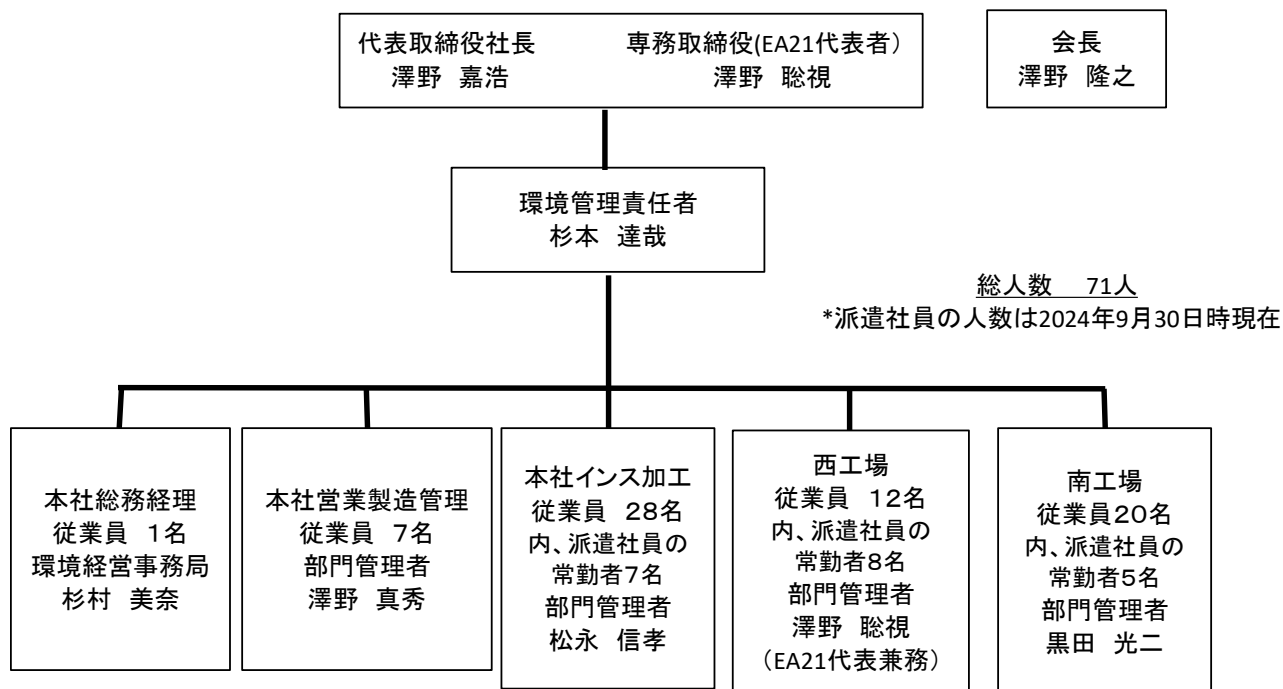
	単位	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
主要製品生産量	t	1025	1038	1027	1048	996
売上高	百万円	2602	3068	3023	3223	2921
従業員数	人	54	57	58	71	71
床面積	㎡	1832	1832	1832	1832	1832

6 敷地概要

◎ 都市計画法での用途地域指定



7 環境経営システムの実施体制



	環境経営システムの役割・責任および権限	
社長 専務	・ 会社経営の一環として環境経営システムを統括する ・ 経営における課題とチャンス、を、明確にする ・ 必要な人材・設備・資金・時間等を適切に準備する ・ 環境管理責任者を任命し環境経営システムの実務上の権限を委任する ・ 環境経営方針の策定・見直し及び全従業員への周知	
環境管理 責任者	・ 代表者による全体の評価と見直し指示の実施 ・ 必要に応じて環境内部監査チームを設置し、監査実施の指示、及び監査結果の対応を環境経営責任者に指示する ・ 緊急事態発生時の統括 ・ 実施体制を構築する	
環境経営 事務局	・ 環境経営システム全体の構築・運用・維持に関する実務上の権限・責任を持つ ・ 代表者への環境経営システム全体の構築・運用・維持の状況の報告 ・ 環境経営目標・環境経営計画の策定と見直し ・ 環境経営方針・環境経営目標・環境活動計画の遂行 ・ 環境関連法規等の取りまとめと見直し	
部門管理者	・ 代表者による全体の評価と見直しに必要とする情報を報告する ・ 環境教育の企画運営や教育資料の収集配布等 ・ 環境経営レポートの作成 ・ 環境関連の対外的窓口 ・ 緊急事態発生時の指揮 ・ 中間審査・更新審査の受審対応	
従業員	・ 環境管理責任者の役割全般の補助 ・ 環境経営システムの運用に係わるデータの収集・まとめ ・ 文書類の作成、管理 ・ 自部門の環境経営システムの運用・維持 ・ 代表者・環境管理責任者の指示・命令の伝達 ・ 自部門の環境関連法規等の遵守の徹底と状況把握 ・ 自部門の環境関連教育の実施 ・ 問題発生時の応急処置・是正処置・予防処置の実施 ・ 環境経営方針・環境経営目標・環境経営計画等の環境への取組みの遂行 ・ 環境関連法規等の遵守 ・ 地域社会の環境施策・行事への参加など社会貢献 ・ 家庭でのエコ生活・子供の環境教育	

Ⅲ 環境経営目標とその実績(負荷)

2023年度目標

項目		単位	基準年	目標(原単位評価)			
			2017年実績	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
二酸化炭素排出量の削減※2		kg-CO2/生産量kg	9.93	2.5%低減	3.0%低減	3.5%低減	4.0%低減
				9.68	9.63	9.58	9.53
電力使用量の削減 ※1 ※2	本社	kWh/生産量Kg	61.70	60.17	59.87	59.57	59.23
	西工場	kWh/生産量Kg	8.69	8.47	8.43	8.39	8.34
	南工場	kWh/生産量Kg	10.93	10.66	10.61	10.55	10.49
化石燃料消費量※2		L/生産量kg	0.501	0.488	0.486	0.483	0.481
一般廃棄物排出量の削減※2		排出量/生産量kg	19.8	19.31	19.21	19.12	19.01
水使用量の削減		m³	645	650以下	650以下	650以下	650以下
自ら生産する製品の環境配慮							
	製品不良発生数の削減	指数	1	0.8	0.76	0.72	0.68
	VA提案の件数	提案件数	8	8	8	8	8
自然環境配慮活動 緑地スペース維持							

※1 電力の二酸化炭素排出係数はP11に記載

2023年度実績

※2 目標・実績値は原単位に100を乗じた数

項目	単位	基準年	2023年度実績				
		2017年実績	目標	実績	達成率	評価	※実数
二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂ /生産量kg	9.93	3.0%低減 9.63	8.29	116.2%	○	82,569.81kg-CO ₂
電力使用量の削減	本社	kWh/生産量kg	61.70	59.87	63.19	94.7%	×
	西工場	kWh/生産量Kg	8.69	8.43	7.93	106.2%	○
	南工場	kWh/生産量kg	10.93	10.61	12.01	88.3%	×
化石燃料消費量	L/生産量kg	0.501	0.486	0.459	105.8%	○	4571.97L
一般廃棄物排出量の削減	排出量/生産量kg	19.8	19.21	15.04	127.7%	○	18139kg
水使用量の削減	m ³	645	650以下	590	110.2%	○	590m ³
自ら生産する製品の環境配慮							
製品不良発生数の削減	指数	1	0.76	0.76	100.0%	○	
VA提案の件数	提案件数	8	8	8	100.0%	○	
自然環境配慮活動 緑地スペース維持							

IV-1 環境経営計画

2023年度環境経営計画

項 目		担当者	環境経営計画	対象拠点
二酸化炭素排出量の削減		松永	環境活動計画実践指示	本社
		専務	環境活動計画実践指示	西工場
		黒田	環境活動計画実践指示	南工場
		社長	広報・啓発	全拠点
電力使用量の削減		松永・専務・黒田	エアコン設定温度・使用時間管理	全拠点
		松永・専務・黒田	エアコン定期メンテナンス	全拠点
		秋田・専務	エアコン簡易点検	全拠点
		杉本・専務・黒田	照明点灯時間管理	全拠点
		杉本	省エネルギー技術情報の収集	本社
		真秀・黒田	作業場照度測定・適正化	本社、南工場
		真秀	加工機 アイドリング時間の電源OFF	本社
		専務・黒田	建物の断熱性・気密性の検討	西・南工場
化石燃料消費量		和田	アイドリング時間の短縮	全拠点
		和田	配送経路、順路検討	全拠点
廃棄物排出量の削減		社長	トムソン型打ち抜き品歩留まり検討	本社
		真秀	ハーフカット品歩留まり検討	本社
		作業者	パーチカルカット品歩留まり検討	本社
		松永	端材活用	本社
		松永	最適在庫管理	本社
		社長	発注管理	本社
		本社事務所	コピー用紙削減、再利用	本社
		仕上げ担当	梱包用段ボール削減、再利用	本社
水使用量の削減		本社事務	トイレの消音装置設置	全拠点
		本社事務	給食弁当容器 洗浄省略	全拠点
		本社事務	節水レバー使用	西・南工場
自ら生産 する製品の 環境配慮	製品不良発生数の削減	製造担当者	製品ダブルチェック 出荷伝票管理	本社
		本社事務所	品質会議の定例化	本社
		本社事務所	安全パトロール(5S)	本社
		配送担当者	配送先確認	本社
		製造責任者	不良発生原因究明	本社
		製造責任者	対策作成・指導	本社
	VA提案の件数	社長・真秀・黒田	社内にて提案検討	全拠点
		社長・真秀・黒田	メーカーとの材料提案検討	全拠点
		社長・真秀・黒田	客先への提案	全拠点
		社長・真秀・黒田	オンラインミーティングの検討	全拠点
自然環境配慮活動緑地スペース維持		本社事務	プランター維持	本社

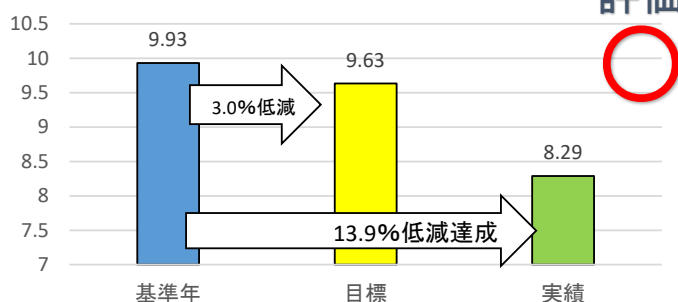
IV-2 今年度(2023年度)の取組結果

今年度の取り組みの具体的内容	担当部門	評価
二酸化炭素排出量削減への取組 本社の1階部分をLED化し全社全照明をLED化する。 引き続き本社のデマンド監視を継続し、適切な電力利用を推進する。 デマンド値は61kWを目標とする。	本社 ○	LED化工事が完了。 デマンド値は57kWとなった。当社の状況からいくとこの値が適正値付近と思われ、今後はこれを維持していく。
電力の削減(生産量当たりの電気使用量削減) 昨年度、南工場が原単位で目標と未達となったが、原因を温度管理にあると考え温度設定は責任者のみができるものとした。	全社員 ×	目標達成には届かなかったが昨年よりも電力使用量を削減できた。
化石燃料の削減 意識づけのためこれまで通り毎月のデータ提出は継続することと、配送ロットによっては納期を繰り上げて一度の配送で済ませるよう受注担当者をお願いしていく。	各ドライバー ○	走行距離、給油量のデータ提出は継続してできている。
廃棄物排出量の削減 端材の活用推進 不良発生、作り間違い防止のためのダブルチェックの推進 ペーパーレスを中心とした事務の合理化を推進する。	本社工場 ○	端材利用の推進で原単位当たりの排出量は減少している。ダブルチェックが機能しない不良発生が数件あったため推進強化をしていく。
水使用量の削減 生活排水のため、使用限度設定をしているが、その範囲内でできている。今後も活動を継続していく。	全社員 ○	意識的に活動できている。
自ら生産する製品の環境配慮 不良発生件数は着実に減っており、活動の効果が間違いなく出ている。今後も継続していく。	本社 ○	ダブルチェックなどの地道な活動も続けられている。
ペーパーレスを中心とした事務の合理化を推進する	経理 ○	ペーパーレス化は上述の通りできている。
工場敷地内に緑化スペースの維持管理に努める。	担当者 ○	良好に維持している。

IV-3-① 2023年度環境経営目標・環境経営計画 [二酸化炭素排出量] /実施/評価

項目	単位	基準年	2023年度実績			
		2017年実績	目標	実績	達成率	評価
二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂ /生産量kg	9.93	3.0%低減 9.63	8.29	116.2%	○
電力	本社	kg-CO ₂		34,215.6		
	西工場	kg-CO ₂		20,670.2		
	南工場	kg-CO ₂		15,927.8		
	全社	kg-CO ₂		70,813.6		
化石燃料	kg-CO ₂			11,756.2		

二酸化炭素排出量/生産量 実績



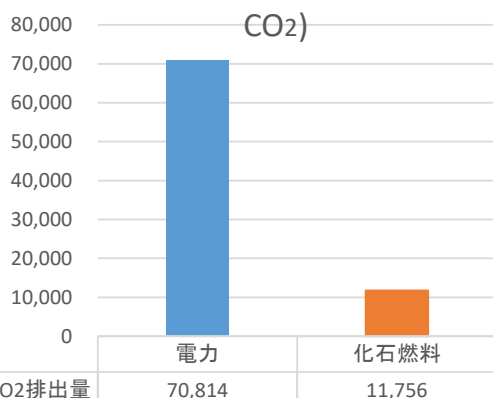
評価

2023年度の二酸化炭素排出量は、排出量を生産量で割った原単位評価で、**目標9.63に対して8.29**と、目標を達成することができた。

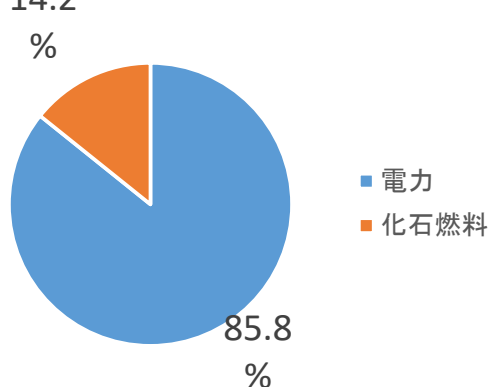
電力使用については当社は空調の制御がメインになるが、今年の夏も大変な暑さで厳しい結果となった。一方、化石燃料の使用が昨年に比べて効率的であったことが結果として目標達成に繋がったものと考えられる。

とはいうものの、二酸化炭素排出は約86%が電力からであるため、空調負荷を下げる取組を考えていく必要があるだろう。

項目別二酸化炭素排出量(kg-CO₂)



項目別CO₂排出量比率



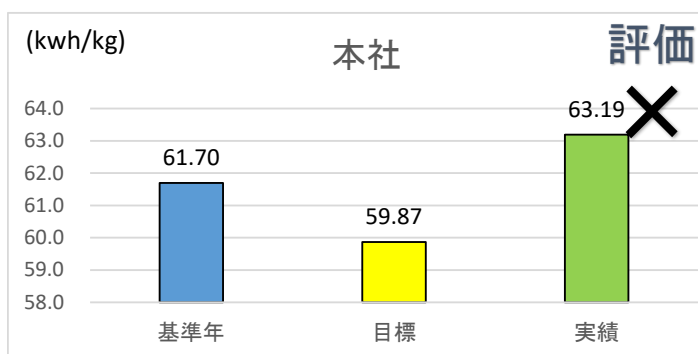
当社で使用する資源の二酸化炭素排出は、電力と製品の運搬にかかる自動車の燃料の二つからである。電力と燃料のCO₂排出割合は上記グラフの通り。

昨年に比べて化石燃料の比率が下がったが、電力使用量の合計は昨年と同等のため生産量が重量ベースで約5%減少(環境への負荷の自己チェック表参照)したことが原因と考えられる。

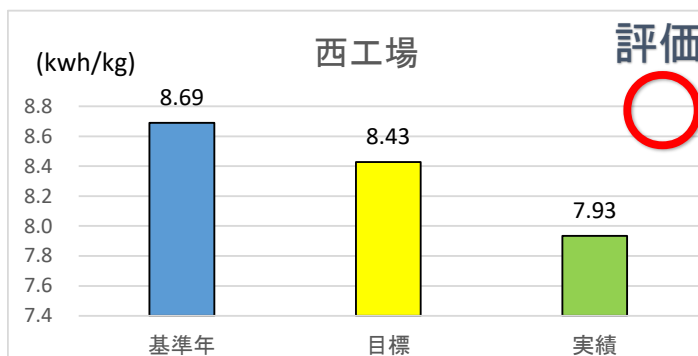
今期は、補助金の関係で先送りにされていたLED化の工事を行うことができた。これにより、照明負荷が12.5%低減できる試算ができています。空調の負荷は気候によって左右されるが、LED化は今後の電力消費削減に安定した効果を見込めると考えている。

Ⅳ-3-② 2023年度環境経営目標・環境経営計画 [電力] /実施/評価

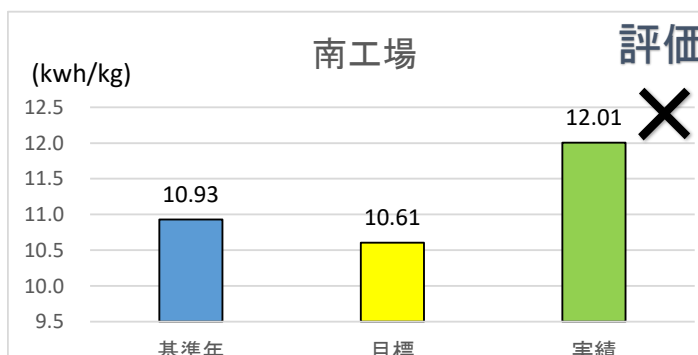
項目		単位	基準年	目標			
			2017年実績	目標	実績	達成率	評価
電力使用量の削減	本社	kWh/生産量kg	61.70	59.87	63.19	94.7%	×
	西工場	kWh/生産量kg	8.69	8.43	7.93	106.2%	○
	南工場	kWh/生産量kg	10.93	10.61	12.01	88.3%	×



本社は、原単位評価で目標59.87に対し今期は実績63.19となり、目標未達となった。昨年と比較すると、電力使用量そのものは昨年82,443kWhに対し今期76,204kWhと約7.5%減少しており、節電意識は引き続き高いものを維持できていると評価している。一方で生産量は重量ベースで昨年の約80%で、生産量の減少が目標未達の要因となっている。



西工場は、昨年度に引き続き目標を大きくクリアした。電力使用量は昨年よりも約10%増加したが、生産量も重量ベースで昨年の約2.5%増加した。原単位での数値は若干悪化したが目標は達成できた。西工場は体力仕事が多く、暑さを感じやすい。特に暑かった8月9月は空調負荷が高くなったが、健康を考えると必要なことでもある。健康に配慮しつつ適切な空調利用を行ないたい。



南工場は昨年度に続いて原単位評価で目標未達となった。ただ、昨年よりもさらに暑く気候の条件が悪かった点と生産量も約11%減少した中で、電力使用量は昨年度35,708kWhに対して今期は35,474kWhと、若干でも下げられた点は評価できる。昨年の反省を活かして空調の温度管理が徹底したことが反映しているものと考えられる。



デマンド値も開始当初91kWだったが今期57kWまで低減できた

	電力会社	排出係数(kg-CO ₂ /kWh)	期間
本社	中部電力ミライズ	0.449	10月～9月
西工場	中部電力ミライズ	0.449	10月～9月
南工場	中部電力ミライズ	0.449	10月～9月

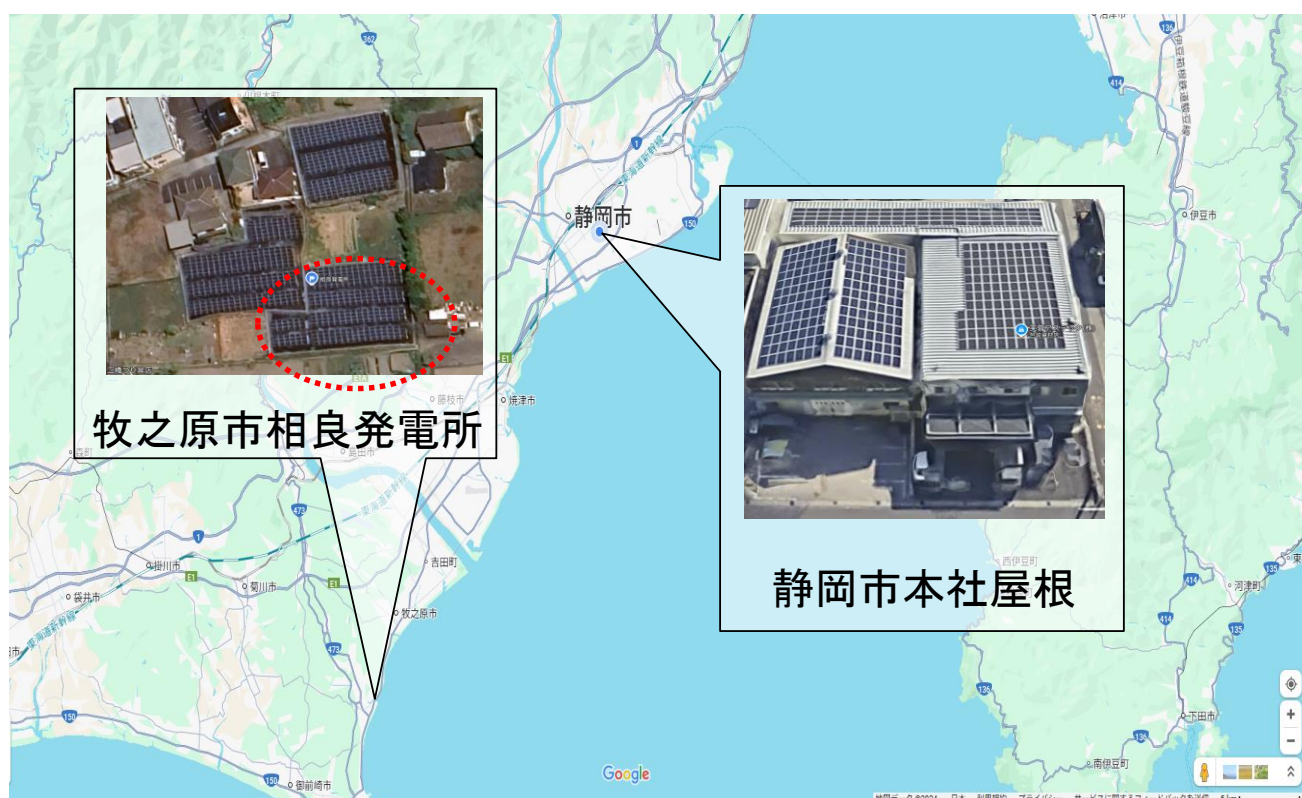
※ 太陽光発電について

項目		実数 (kWh)
使用電力量	本社	76,204
	西工場	46,036
	南工場	35,474
	合計	157,714
太陽光 発電電力量	静岡市本社屋根	62,690
	牧之原市相良	95,730
	合計	158,420
	差引	706

当社は本社の屋根と牧之原市相良（野立て）で太陽光発電を行なっている。

本社屋根は2014年10月から、牧之原市相良は2018年1月から稼働しているが、これまでエコアクションの活動としては特に報告をしてこなかった。

今回、太陽光の発電量と全社の使用電力量を比較してみたところ発電量の方が多く、電気の部分においては当社がネットゼロを達成していることがわかったため、本レポートから掲載することとした。当社が事業活動において排出するCO₂の85%以上が電気によるもののため、電気のネットゼロ達成は意義のあるものと考えている。



Ⅳ-3-③ 2023年度環境経営目標・環境経営計画 [化石燃料] /実施/評価

基準年	目標	使用量/生産量(L/kg)	CO ₂ 排出量(kg)	評価
0.501	0.486	0.459	11,756.22	○

拠点別使用量 実績

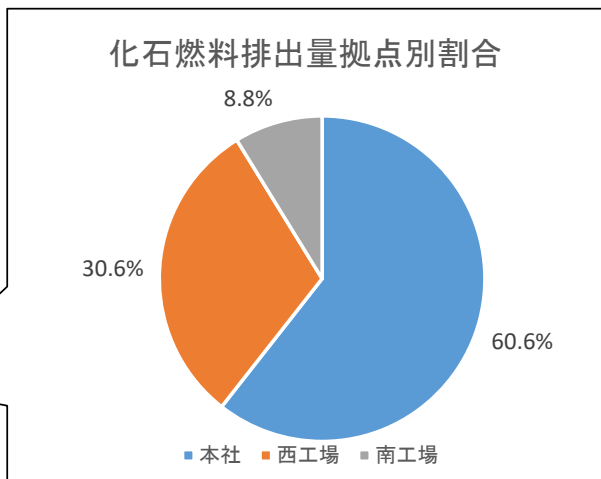
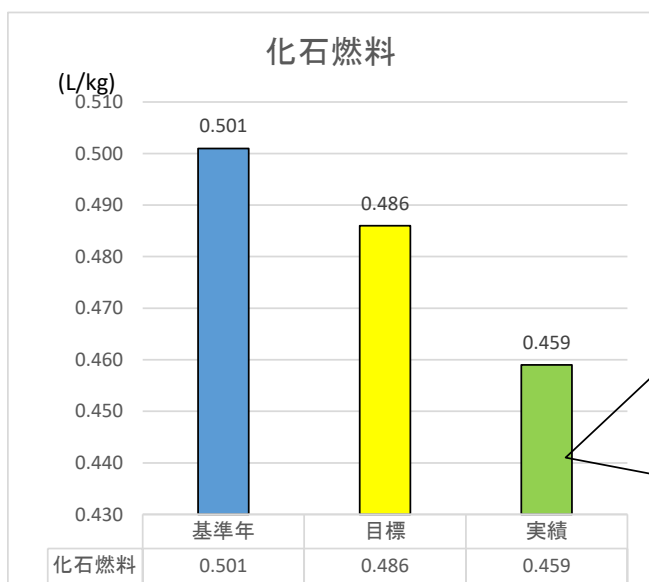
本社	使用量(L)	使用量/生産量(L/kg)	CO ₂ 排出量(kg)	燃料
トラック①	1,124.35	0.113	2,900.82	軽油
トラック②	1,116.26	0.112	2,879.95	軽油
軽トラ	151.77	0.015	352.11	ガソリン
バン	377.76	0.038	974.62	軽油
本社計	2,770.14			
西工場	使用量(L)	使用量/生産量(L/kg)	CO ₂ 排出量(kg)	燃料
トラック	1,400.50	0.141	3,613.29	軽油
南工場	使用量(L)	使用量/生産量(L/kg)	CO ₂ 排出量(kg)	燃料
トラック	401.33	0.040	1,035.43	軽油
全社計	4,571.97			



本社 トラック廃棄しバンを導入



南工場 トラック更新



目標0.486に対して実績0.459(いずれも原単位評価)と昨年に引き続き目標を達成することができた。化石燃料は

3年続けての達成となる。

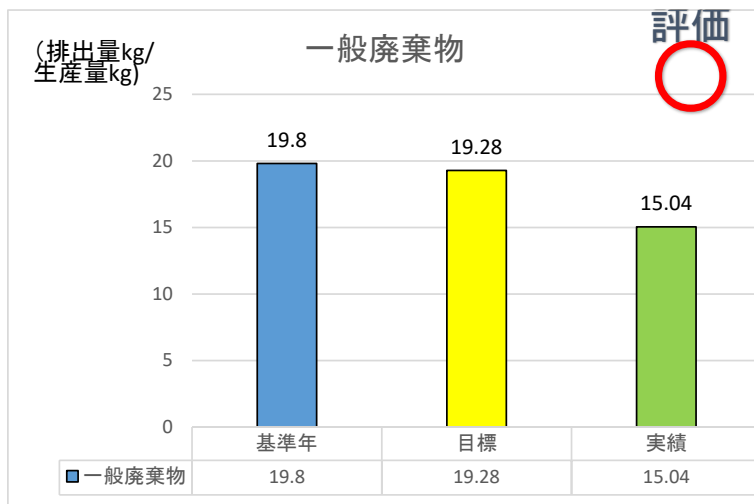
生産量は減少しているが、物量が少ない場合でも一度の運搬をなるべくまとめることによって配送の本数を生産量の減少量以上に減らした点が反映していると考えられる。燃料の使用量は実数で昨年5044.14Lに対し今期4571.97Lと約10%減少した。

今後の取り組みについて

出荷量に応じて納期を繰り上げて集約する取り組みを継続する。

積載効率の向上と配送ルート合理化を推進していく。

IV-3-④ 2023年度環境経営目標・環境経営計画 [一般廃棄物] /実施/評価



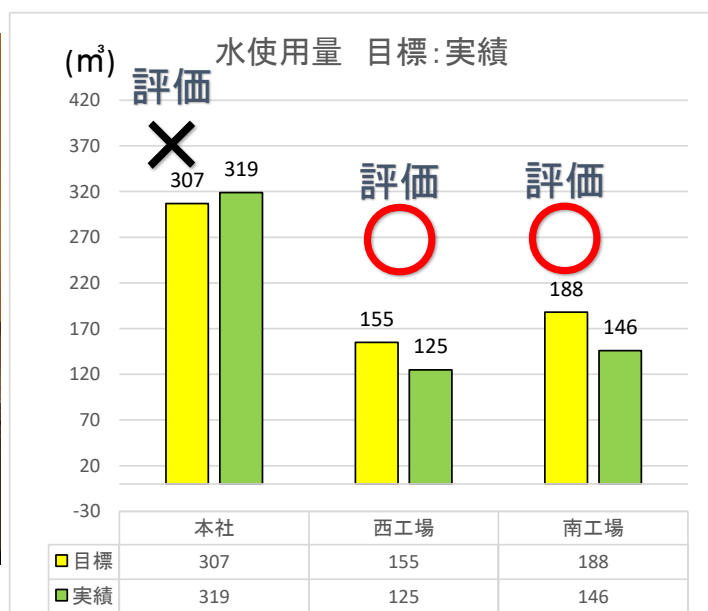
一般廃棄物はすべて有価物として蘭の栽培業者に引き取ってもらっている

一般廃棄物は、今期も目標達成となった。一般廃棄物は主に本社の生産に使用しているインスレーションの切れ端や加工不良の廃棄分である。西工場、南工場は基本的に生産上の廃棄物が出ないため、本社の生産量をベースに原単位で評価しているが、今期も昨年と同等の実績となった。引き続き、積極的な端材利用を含めた歩留まり向上と、不良数削減の声掛けを行なっていく。

IV-3-⑤ 2023年度環境経営目標・環境経営計画 [水使用量] /実施/評価



西工場の1階2階ともトイレをリフォームし



水使用量は本社以外で目標達成となった。昨年は西工場の老朽化した水道の埋設管が敷地内で破裂したことで使用量が多くなったが、今期はそういった事故もなく、トイレをリフォームしたこともあって昨年よりかなり使用量を落とすことができた。本社も未達ではあるが昨年353m³だった使用量が319m³に減っている。昨年は西工場のトイレリフォーム中に本社のトイレ使用が増えていた。突発的な事故は防げない場合もあるが、早め早めの点検と対応が資源のムダを削減することにつながるため、今後気を付けていきたい。

IV-3-⑥ 2023年度目標・環境経営計画 自ら生産する製品の環境配慮

製品不良発生削減(2017年度総不良発生件数を1として毎年0.04削減する)

表示: 活動計画 実施 ◎

項目	部門	担当者	環境経営目標	基準年	2017	2023年度(2023. 10~2024. 9) 環境活動計画/実施/評価											
				基準値	2017発生数を1	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
自ら生産する製品の環境配慮	本社	製品不良発生削減	環境経営目標	不良発生限度目標		0.72		0.72		0.72		0.72		0.72		0.72	
				実績		0.32		0.24		0.24		0.24		0.24		0.24	
				製造担当者 本社 製造責任者 製造責任者	環境経営計画	製品ダブルチェック 出荷伝票管理		○ ⇒ ◎		○ ⇒ ◎		○ ⇒ ◎		○ ⇒ ◎		○ ⇒ ◎	
						品質会議の定例化		○ ⇒ ◎		○ ⇒ ◎		○ ⇒ ◎		○ ⇒ ◎		○ ⇒ ◎	
						安全/パトロール(5S)		○ ⇒ ◎		○ ⇒ ◎		○ ⇒ ◎		○ ⇒ ◎		○ ⇒ ◎	
						配送先確認		○ ⇒ ◎		○ ⇒ ◎		○ ⇒ ◎		○ ⇒ ◎		○ ⇒ ◎	
						不良発生原因究明		○ ⇒ ◎		○ ⇒ ◎		○ ⇒ ◎		○ ⇒ ◎		○ ⇒ ◎	
						対策作成・指導		○ ⇒ ◎		○ ⇒ ◎		○ ⇒ ◎		○ ⇒ ◎		○ ⇒ ◎	
						年間総合評価		◎		◎		◎		◎		◎	
				専務 真秀 黒田	評価	ダブルチェックは行っているものの、機能していない不良発生が散見される。形骸化させないよう、朝礼等で注意喚起していく。		員数不足 材料違い 加工不良		加工不良 欠品		指示誤り 員数不足		員数不足 指示誤り			
						年間総合評価		◎		◎		◎		◎		◎	
	全社	VA提案活動	環境経営計画	VA提案件数 8件	VA提案実績	VA提案目標件数		2		2		2		2		2	
						VA提案実績		2		2		3		2		2	
						VA提案目標累計		2		4		6		8		8	
						VA提案実績累計		2		4		7		9		9	
				環境経営計画	顧客との材料提案検討	社内にて提案検討		○ ⇒ ◎		○ ⇒ ◎		○ ⇒ ◎		○ ⇒ ◎		○ ⇒ ◎	
						メーカーとの材料提案検討		○ ⇒ ◎		○ ⇒ ◎		○ ⇒ ◎		○ ⇒ ◎		○ ⇒ ◎	
						客先への提案		○ ⇒ ◎		○ ⇒ ◎		○ ⇒ ◎		○ ⇒ ◎		○ ⇒ ◎	
						オンラインミーティングの検討		○ ⇒ ◎		○ ⇒ ◎		○ ⇒ ◎		○ ⇒ ◎		○ ⇒ ◎	
				年度評価	年間総合評価	年間総合評価		◎		◎		◎		◎		◎	
						客先と対面での打ち合わせもほぼ従来通りにできるようになり、スピード感をもって提案活動ができています。		非開示		非開示		非開示		非開示		非開示	

IV-3-⑦ 2023年度 環境経営活動

表示: 活動計画 実施 ◎

項目	部門	担当者	環境経営目標	2023年度(2023. 10~2024. 9) 環境活動計画/実施/評価											
				10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
緑地スペース維持	本社	本社事務所	自然環境配慮活動	安全パトロールの定例化		○ ⇒ ◎		○ ⇒ ◎		○ ⇒ ◎		○ ⇒ ◎		○ ⇒ ◎	
				従業員のスキルアップ(受注バランス対応)		○ ⇒ ◎		○ ⇒ ◎		○ ⇒ ◎		○ ⇒ ◎		○ ⇒ ◎	
				プランナー維持		○ ⇒ ◎		○ ⇒ ◎		○ ⇒ ◎		○ ⇒ ◎		○ ⇒ ◎	
				活動評価/数値評価		◎		◎		◎		◎		◎	
		年度評価	四半期総合評価	年間総合評価		◎		◎		◎		◎		◎	
				年間を通じて良好に育成されています。		実行されています。		実行されています。		実行されています。		実行されています。		実行されています。	

V-1 次年度(2024年度)の取組内容

※ 次年度の環境経営目標はレポート7頁:2023年度(縦の列)を参照

2023年度の取組にあたって	今期は本社と南工場電力以外が達成となった。 南工場は、昨年の反省を活かし空調の設定のルール化を開始した効果、昨年以上の暑さだった今期に昨年よりも電力使用量を削減できた。本社は既に取り組んでいたデマンド管理を継続し、常に負荷に気を配っていた結果、昨年よりも大きく削減することができた。今後もこの活動を維持していく。 全社的には今期をもって全ての照明をLED化することができた。今後、当面はこの設備を維持していくことになるが、使用しない部屋の照明や空調を管理して省エネに取り組んでいきたい。	
取組の具体的内容	具体的内容	担当部門
	○ 二酸化炭素排出量削減への取組 照明は全社LED化が完了した。今後の二酸化炭素排出量削減については検討中。 LED化の実際の効果を確認していく。	本社 ○
	○ 電力の削減(生産量当たりの電気使用量削減) 西工場以外では目標未達となったが本社も南工場も使用量自体は削減できている。 現在の取り組みを継続していく。	全社員
	○ 化石燃料の削減 意識づけのためこれまで通り毎月のデータ提出は継続することと、配送ロットによっては納期を繰り上げて一度の配送で済ませるよう受注担当者をお願いしていく。	各ドライバー
	○ 廃棄物排出量の削減 端材の活用を推進で歩留まり向上の成果がでているが、今期はダブルチェックが機能していない不良発生が起きており、朝礼の場での注意喚起を今後も継続する。 事務処理の紙削減は、裏紙使用推進とペーパーレス化を引き続き進めていく。	本社工場
	○ 水使用量の削減 昨年と比較し使用量が減っているため、これまでと同じ活動で管理していく。	全社員
	○ 自ら生産する製品の環境配慮 廃棄物量削減と同様に、ダブルチェックの健全化に努める。	本社
	○ 引き続きペーパーレスを中心とした事務の合理化を推進する	経理
	○ 工場敷地内に緑化スペースの維持管理に努める。	担当者

VI 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟などの有無

1 環境関連法規等は新たな設備投資、更新毎に確認するものとし、またチェック漏れ防止のため当社決算最終月において再見直しを行い遵守状況を確認する。

確認者		杉本達哉
一覧表作成年月日		平成26年9月19日
一覧表見直し年月日		平成27年9月18日
遵守状況確認年月日		2024年9月20日

法規等の名称		適用内容	実施義務・規制基準等	当社対応	管理部門	遵守状況		
環境基本法	循環型社会形成推進基本法	廃棄物の処理及び清掃に関する法律【廃棄物処理法】 ページック環境六法 P290	・産業廃棄物の保管	◇産業廃棄物 ・保管場所周囲の囲いと表示板設置 ・飛散、流出、地下浸透の防止	・表示板: 60×60cm以上 ・金属製の廃棄箱の設置	本社総務	問題なし	
			・産業廃棄物の運搬、処分 の委託	・運搬、処分等の委託基準遵守 ・委託業者との委託契約書の交換 (許可証、再生利用認定書の写し等添付) ・契約書の保管	・契約書の締結と保管 保管: 契約終了の日から5年間 ・許可証等の写し保管 更新許可証の確認と差換え	本社総務	問題なし	
			・産業廃棄物管理票 (マニフェスト)	・産業廃棄物引渡し時のマニフェストの交付 ・マニフェストの写し(B2、D、E票)の返送及び運搬終了、処分終了、最終処分終了の確認 ・マニフェストの写し(B2、D、E票)が期限までに返送されない場合の措置と知事への報告 ・マニフェストの保管と交付状況報告	・マニフェスト交付 ・マニフェスト(A票)にマニフェスト写しの返送日を記入 ・運搬、処分状況を委託業者から把握し、30日以内に知事へ報告 ・マニフェストを交付順に保管(保管期限: 5年間) ・前年度のマニフェスト交付状況を6月末日までに知事へ報告	本社総務	問題なし	
		静岡県(静岡市) 産業廃棄物の適正な処理に関する条例 http://www.pref.shizuoka.jp/kankyoku/ka-040/documents/jourei.pdf	・産業廃棄物管理責任者	・産業廃棄物管理者の選任	・産業廃棄物管理責任者の選任	専務	問題なし	
			・実地確認	・委託業者の運搬または処分が行われる施設の実地確認とその記録の保管	・運搬または処分を委託しようとする時はあらかじめ実施する ・1年以上継続して運搬または処分を委託する時は毎年1回実施する ・実施記録の保管 : 実施した日から5年間	専務	問題なし	
	騒音規制法	静岡県生活環境の保全等に関する条例 shizuoka.jp/kankyou/ka-050/documents/matome.pdf#sea	・指定地域内の特定施設を設置する工場又は事業所の騒音	・騒音規制基準: dB 昼間 朝・夕 夜間 第1種区域 50 45 40 第2種区域 55 50 45 第3種区域 65 60 55 第4種区域 70 65 60 ・特定施設の届出	・規制基準の遵守 ・新工場での再計測完了 問題なし	専務	届出済み	
			・特定施設の届出	・該当特定施設の届出				
		振動規制法	静岡県生活環境の保全等に関する条例 shizuoka.jp/kankyou/ka-050/documents/matome.pdf#sea	・指定地域内の特定施設を設置する工場又は事業所の振動	・振動規制基準: dB 昼間 夜間 AM8~PM8 PM8~AM8 第1種区域 60 55 第2種区域 70 65 ・特定施設の届出	・規制基準の遵守 ・該当特定施設の届出	専務	届出済み
				・特定施設の届出	・該当特定施設の届出			
		労働安全衛生法 *当社顧問 花田社労士に法規確認	・通知対象物質の取扱に関する内容の労働者への周知等	・労働者への周知 ・作業環境の確保 ・健康診断の実施	・SDSを入手した化学物質について、取り扱う社員全員に対し、SDSのコピーを渡し教育を行う ・当該通知対象物質使用現場へSDSを掲示する ・作業現場の通気性を確保する ・対象社員の健康診断を実施する	本社総務	該当物質なし	
消防法	静岡県火災予防条例 (静岡県規則第253号)	・消防用設備等設置届出 ・消防用設備等点検報告	消防設備業者に委託	本社総務	問題なし			
フロン排出抑制法 ページック環境六法 P109		簡易点検(7.5kW以下) すべての第一種特定製品について3ヶ月に1回以上、管理者自身による簡易定期点検を行う	簡易点検の実施・記録	本社総務	実施済み			

2 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

環境関連法規への違反はありません。なお、関係当局よりの違反・訴訟等の指摘は過去3年間ありません。

3 取引先からの購入条件

三菱電機 静岡製作所
三菱電機 グリーン調達基準書に基づく認定を受けていること
化学物質基準を遵守すること
*グリーン認定Aランク取得済

VII-1 事故及び緊急事態の想定結果及びその対応策

事故や天災等の緊急事態を想定し、その際、環境に与える影響を最小限に食い止めるために必要な対応策を定め、準備訓練を行う。

詳細は事業継続計画書を新たに作成し連動させる

想定される緊急事態の概要

使用化学物質等 (石油製品等含む)	対象設備 対象作業	対象部門	想定緊急事態	想定環境影響
インスレーション全般 ポリエチレン発泡体 ポリウレタン発泡体 ゴム成形品等	バーチカルカッター 油圧プレス ハーフカットプレス スリッター	本社及び 本社倉庫	火災 地震を起因とした火災 不審火による火災 水害	火災発生による黒煙の飛散 燃焼による一酸化炭素等の発生 燃焼ガスの発生 材料、製品の流出
梱包材全般 発泡スチロール	4コーナーグルーミング マシン ロールコーター アームステッチャー	西工場	火災 地震を起因とした火災 不審火による火災 水害	火災発生による黒煙の飛散 燃焼による一酸化炭素等の発生 燃焼ガスの発生 材料、製品の流出
組立用板金部品 プラスチック成形品 モーター ゴム成形品等	組立製造ライン 材料保管場所	南工場	火災 地震を起因とした火災 不審火による火災 水害	プラスチック成形品 ゴム成形品の燃焼ガス発生
全社	全社	全社	感染症の拡大	人員不足による生産の停滞

対応策

緊急事態	初期対応策	対応者	備考
火災 地震を起因とした火災 不審火による火災	消火器による初期消火 消防署へ連絡 本社事務所へ連絡	発見者 近くの者	初期消火対応者以外は屋外へ退避すること 緊急時、消火器と火災報知器を使用できる状態にするため常にその周辺の片付けを徹底する
水害	材料・製品流失防止のため 出入口の状況確認 本社事務所へ連絡	発見者 近くの者	危険を察知した場合は階上に上がる
感染症の拡大	検温・マスク着用 手洗いの励行・消毒 来訪者制限	本社	行政の指示に準ずる

訓練計画

実施頻度	時期	訓練の内容 結果の記録
年一回	適時実施する。	緊急事態を想定し、対応方法を確認する。 結果を環境活動レポートに掲載する。

Ⅷ 代表者による全体の評価と見直し・指示

芙蓉アステック株式会社

代表取締役社長 澤野 嘉浩

2023年度

(活動期間 2023年10月1日～2024年9月30日)

1. 全体の評価

2024年11月 27 日

・今期は本社と南工場の電力削減が目標未達となったが、当社の電力は製造機械の運転よりも空調による負荷の方が大きいため、その年の気候によって増減が大きい。今年の夏は昨年以上の酷暑で、夏場の空調負荷が昨年に比べかなり高くなった。それでも西工場は目標を達成しているし、本社と南工場も使用量が実数で削減できたことは取組みがうまく機能している結果である。作業者の熱中症対策や体調管理が最優先だが、必要なところに必要なだけの量を使うという基本を今後も徹底していきたい。特に本社では一昨年からデマンド管理を開始してから、デマンド値が91kWから現状57kWにまで削減できた。これに伴って使用量も減少しており、見える化の効果を実感するところである。受電が低圧のところではリアルタイムでの監視は難しいが、日々の使用量を監視して節電の意識づけを徹底していきたい。

・資源価格の高騰はいまだに続いており、省資源化と会社経営との関係が一層強くなっていると感じる。引き続き配送の効率化と省エネ、節水に努めていきたい。

2. 見直しおよび変更指示

項目	変更要否	評価
環境経営方針	否	着実に実行されています。
環境経営目標	要	2017年度実績を基準値としていますが、現在までにトラックや照明の更新を実施しているため基準値と中期目標の見直しが必要です。
環境経営計画	否	着実に実施されています。
実施体制	否	良好に運営されています。

＜全体評価のための個別評価＞

項 目	評 価
環境負荷自己チェック	引き続き生産重量比率を評価の対象とし、生産効率の観点で数値評価していく。
環境取組自己チェック	2022年度73.3%に対して今期72.9%となったが取組が増加しており評価点では6ポイント増加している。
環境経営目標達成状況	全社での二酸化炭素排出量は達成。廃棄物量と化石燃料、水使用量も達成できたが電力では本社と南工場が原単位評価で未達となった。ただ、未達であってもどちらも昨年よりも使用量は下がっており、生産量の回復に期待し同様の活動を続ける。
環境経営計画の達成状況	達成できている。
該当環境関連法規等の遵守 および制定・改廃状況	顧問先からの支援を受け、法規チェックなどを行っている。
緊急事態の対応策	各拠点の消火器、火災報知機の位置を確認するとともに万一の火災の際の初動について説明した。
教育・訓練の実施状況	フォークリフト運転者に対して、ヘルメット着用義務を徹底した。
外部とのコミュニケーション の状況	環境経営レポートを来客に配布するなど、啓発活動に努めている。
規定類、手順書等の関連文書 および関連記録の最新版管理 の状況	顧問先からの支援を受け、取り組んでいる。